

5-3 東海地方における地震活動の変化

On the Seismic Activity in the Tokai District

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図に東海地方における最近5カ年間の地震活動状況を示した。

図に示した各A・B・C3領域の主な活動の変化は次のとおりである。

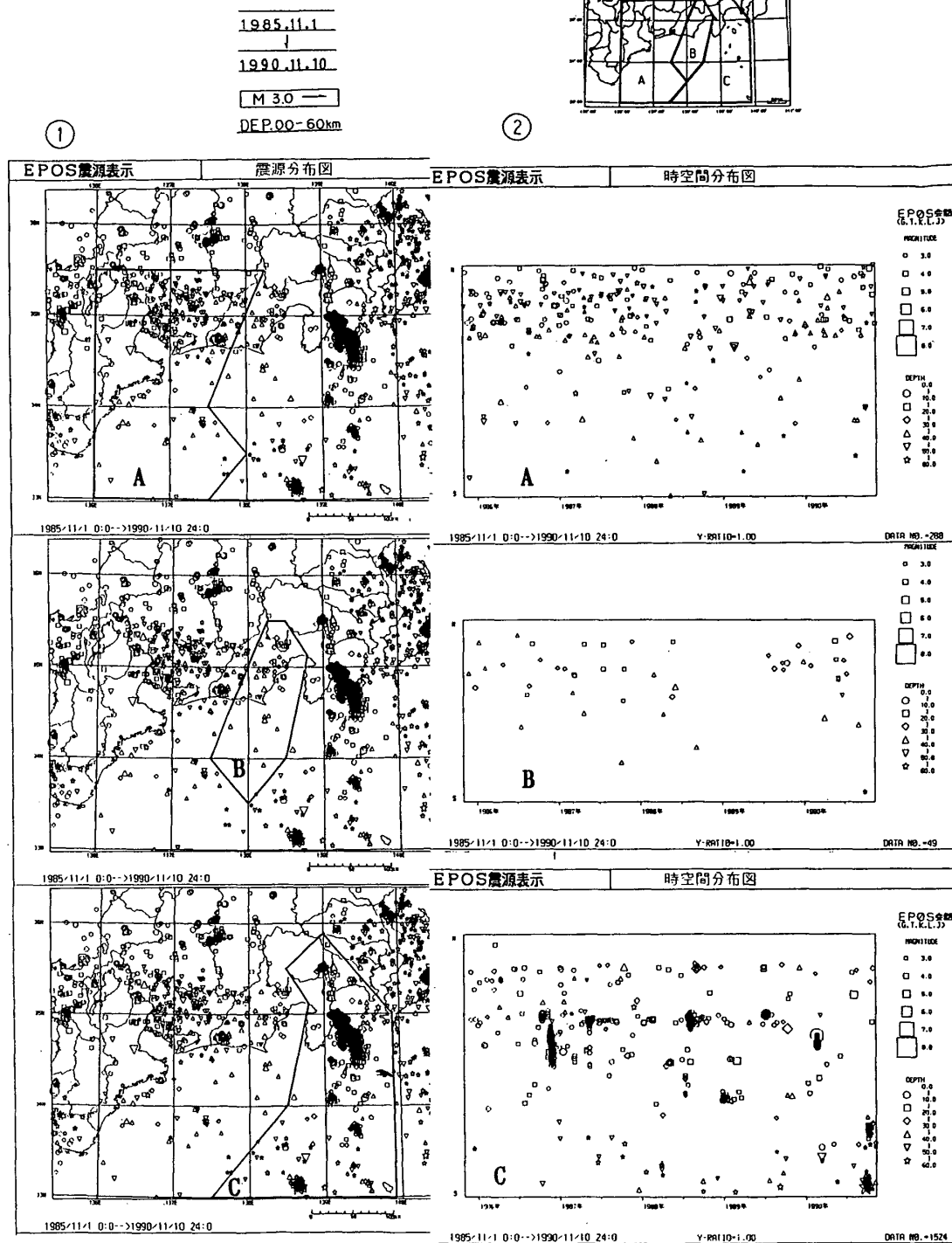
A領域：本年に入って、この領域の南側の地震活動が静穏化し、活動の推移が注目されていたが、後半に入って以降これまでに6個の地震が発生した。しかし、これらはすべて34°N以南に限られており、なお活動の変化には留意が必要。

B領域：1988年後半から1989年前半にかけての約1カ年間、全域にわたって空白化した状態が続き、きわめて強い関心の的となっていたが、1989年後半以降これまでに19個の地震*が発生した。発生場所も焼津～静岡市付近のごく限られた地域から、総じては次第に南北に広がる形となり、月の発生数も空白化する以前の状態にもどったとみられる。しかし、これでこの領域の留意すべきパターンがすべて解消されたとは即断しがたい。なおいましばらくは、活動の推移に十分注意していく必要がある。

C領域：9月24日の東海道はるか沖の地震(M6.6)とその余震活動及び10月5日からの三宅島近海の群発地震活動等により、この領域の34°N以南は最近にぎやかになっている。一方、これまで活動の中心をなしていた伊豆半島東方沖や伊豆大島付近の海域は、本年2月20日の伊豆大島西方沖のM6.5の地震以後、静穏化が進行しているようにみえる。今後の活動の変化が注目される。

注：*の19個の地震は次のとおり。なお、'89年7月～12月の7地震については、地震予知連絡会会報・第44巻「東海地方における地震活動の変化」の末尾に掲載。'90年1月27日00時20分のM3.0(深さ22.2km)、4月1日16時43分のM4.0(同37.8km・最大震度2)、5月16日02時18分のM3.9(同11.8km・最大震度2)、5月21日21時16分のM3.0(同14.9km)、5月30日08時30分のM3.0(同15km)と09時36分のM3.1(同15.1km)、6月18日08時30分のM3.3(同42.1km)、6月25日13時08分のM3.2(同27.1km)、7月9日のM3.5(同26.0km・最大震度1)、7月23日09時59分のM4.3(同28.3km・最大震度2)、8月30日04時40分のM3.4(同32.7km)、9月27日02時32分のM3.0(同52.4km)。

東海地方における地震活動の変化



ザンティ: '90年10月1日

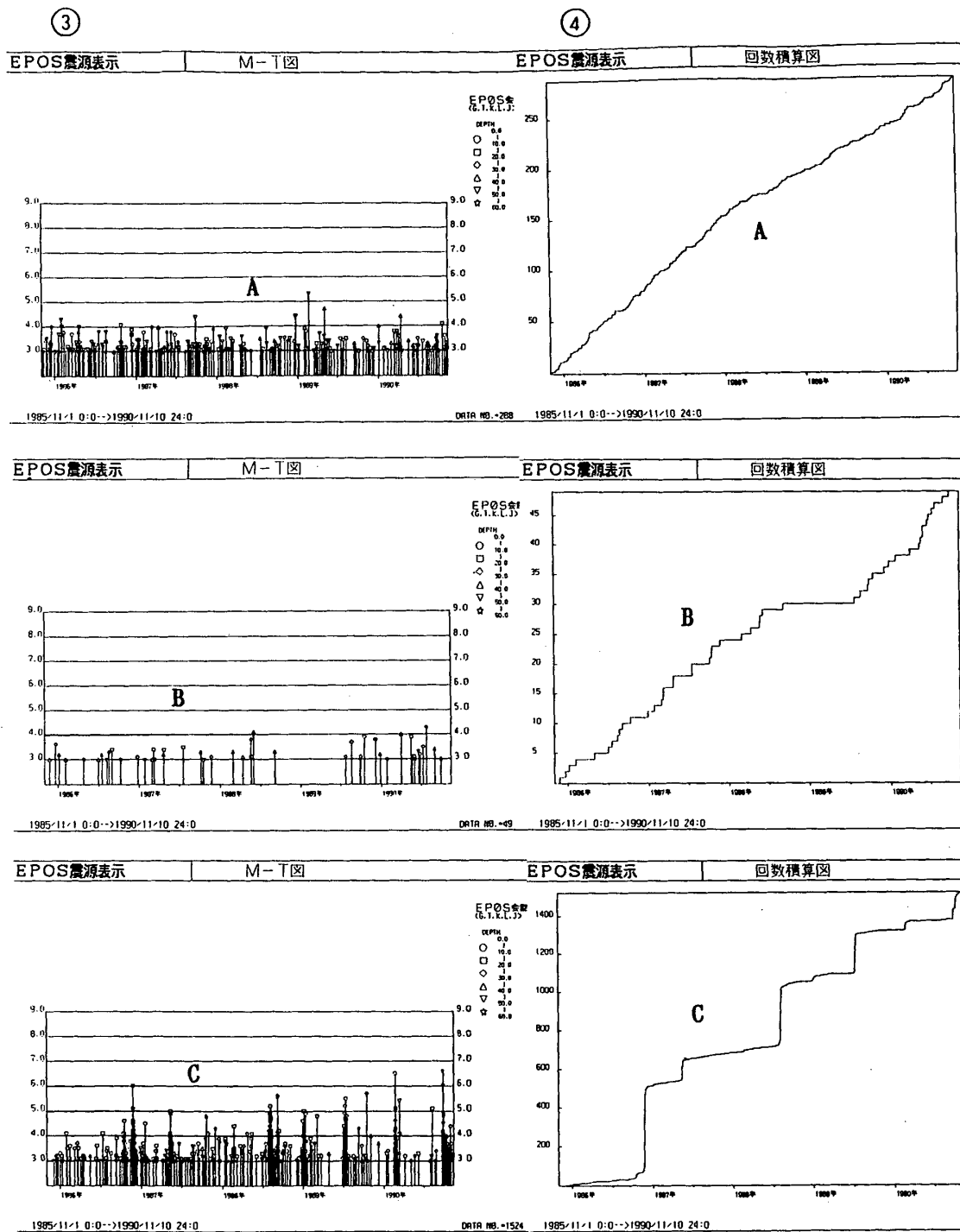
第1図 東海地方のA・B・C領域における地震活動

(1985年11月1日～1990年11月10日・M3.0以上)

(1): 震央分布, (2): 時空間分布, (3): M-T図, (4): 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (Nov. 1, 1985 – Nov. 10, 1990: $M \geq 3.0$).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)